



2022年8月9日

各位

会社名 藤田観光株式会社
代表者名 代表取締役兼社長執行役員 伊勢宜弘
(コード番号:9722、東証プライム)
問合せ先 取締役企画本部管掌 野崎浩之
(TEL. 03-5981-7723)

第2四半期連結累計期間業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2022年2月10日に発表いたしました2022年12月期第2四半期連結累計期間(2022年1月1日~2022年6月30日)の業績予想と、本日発表の第2四半期決算実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、あわせて同日に発表いたしました2022年12月期の通期連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2022年12月期 第2四半期 連結累計期間業績予想と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 16,600	百万円 △4,600	百万円 △4,600	百万円 △4,600	円銭 △383.79
実績値(B)	18,308	△3,804	△3,512	△2,558	△213.49
増減額(B-A)	1,708	795	1,087	2,041	
増減率(%)	10.3%	—	—	—	
(参考)前期第2四半期実績 (2021年12月期第2四半期)	11,928	△10,056	△10,344	19,400	1,619.00

2. 第2四半期連結累計期間の予想と実績値との差異理由

売上面ではラグジュアリー&バンケット事業において婚礼部門が件数、人員ともに当初予想から増加し好調に推移した他、料飲・宴会部門でも個人慶事利用や法人利用の回復、イベントの好況により増収となりました。また、WHG事業においては行政への施設提供(一棟貸し)が当初予想発表時の期間から延長されたことも、増収に寄与しました。これらによる増収と連動して営業損失ならびに経常損失も当初予想から改善し、親会社株主に帰属する四半期純損失についても、助成金収入に伴い特別利益を約9億円計上したことにより、経常損失を上回る改善幅となりました。

3. 2022年2月10日発表セグメント別売上数値の見直し

2022年2月10日に発表いたしましたセグメント別売上数値につきまして、上期のセグメント別実績を踏まえ以下のとおり見直しました。

(単位:百万円)

	上期 第2四半期累計期間 (1月～6月)		下期 (7月～12月)		通期 (1月～12月)	
	見直し後	前回予想比 (2/10発表)	見直し後	前回予想比 (2/10発表)	見直し後	前回予想比 (2/10発表)
売上高	16,600	—	23,200	—	39,800	—
WHG事業	7,600	700	11,900	800	19,500	1,500
L&B事業 ※1	5,800	200	7,600	200	13,400	400
リゾート事業	2,100	—	2,700	—	4,800	—
その他(調整額 ※2 含む)	1,100	△900	1,000	△1,000	2,100	△1,900
営業利益	△4,600	—	△1,400	—	△6,000	—
WHG事業	△2,900	—	△1,200	—	△4,100	—
L&B事業 ※1	△800	—	200	—	△600	—
リゾート事業	△400	—	△300	—	△700	—
その他(調整額 ※2 含む)	△500	—	△100	—	△600	—
経常利益	△4,600	—	△1,600	—	△6,200	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△4,600	—	△1,300	—	△5,900	—

※1 L&B事業…ラグジュアリー&バンケット事業

※2 調整額…セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります

4. 2022年12月期 通期連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	39,800	△6,000	△6,200	△5,900	△492.25
今回発表予想(B)	40,500	△6,000	△5,900	△4,700	△392.14
増減額(B-A)	700	—	300	1,200	
増減率(%)	1.8%	—	—	—	
(参考)前期通期実績 (2021年12月期)	28,433	△15,822	△16,542	12,675	1,057.69

5. 通期連結業績予想の修正理由

下期の宿泊需要の動向については、政府によるコロナ水際対策緩和の動きはあるものの、訪日外国人数の回復には未だ相応の時間がかかると見込まれます。また、足下では新型コロナウイルス新規感染者数が再び増加に転じるなど、依然先行きが不透明な状況です。これらを踏まえ、当社では宿泊部門におけるインバウンドの集客への影響を考慮し、宿泊を主体で営んでいるWHG事業にて、下期は前回発表予想から約10億円の減収を見込んでおります。一方、ラグジュアリー&バンケット事業及びリゾート事業においては当初予想のなかでインバウンドの回復効果を織り込んでいないことから、据え置きといたしました。

また、下期の利益面では減収と連動する影響で、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失それぞれ約8億円の悪化を見込んでおります。

以上のとおり、通期の連結業績といたしましては、売上高は前回発表予想から約7億円増収の405億円、営業損失は前回発表予想どおりの60億円、経常損失は前回発表予想から3億円改善の59億円、親会社株主に帰属する当期純損失は前回発表予想から12億円改善の47億円を見込みます。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予測数値と異なる可能性があります。

(単位:百万円)

	上期 第2四半期累計期間 (1月～6月)		下期 (7月～12月)		通期 (1月～12月)	
	実績 (8/9発表)	見直し後 予想比(※3)	今回予想 (8/9発表)	見直し後 予想比(※3)	今回予想 (8/9発表)	見直し後 予想比(※3)
売上高	18,308	1,708	22,191	△1,008	40,500	700
WHG事業	8,421	821	10,878	△1,021	19,300	△200
L&B事業 ※1	6,628	828	7,571	△28	14,200	800
リゾート事業	2,200	100	2,699	△0	4,900	100
その他(調整額(※2)含む)	1,058	△41	1,041	41	2,100	—
営業利益	△3,804	795	△2,195	△795	△6,000	—
WHG事業	△2,621	278	△1,978	△778	△4,600	△500
L&B事業 ※1	△403	396	203	3	△200	400
リゾート事業	△586	△186	△313	△13	△900	△200
その他(調整額(※2)含む)	△192	307	△107	△7	△300	300
経常利益	△3,512	1,087	△2,387	△787	△5,900	300
親会社株主に帰属する 当期純利益	△2,558	2,041	△2,141	△841	△4,700	1,200

※1 L&B事業…ラグジュアリー&バンケット事業

※2 調整額…セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります

※3 「3. 2022年2月10日発表セグメント別売上数値の見直し」反映後の対比で示しております

以 上